COLUMN

市長コラム

国の借金

Column No.199

文・笠間市長　山口　伸樹

コロナ交付金を活用し感染症対策として学校に自動水栓を設置

毎年国から地方交付税、国庫支出金、交付金など約130億円が市に交付されます。ここ数年はコロナ禍により増額されています。使い方は「自由に」「ある程度自由に」「使い道が決まっている」など条件があります。

市は、こうした国庫支出金などを活用して、コロナ対策やハード・ソフト事業など住民サービスのために事業を行っています。

国は、国債(借金)を発行して財源を確保します。この国の借金は令和4年度末には1026兆円に上ると言われています。今後少子化の加速や社会保障費の増大に伴い、どのような方法で返済していくのか不安もあります。

日本は国の対外債務が少なく、個人資産が多いから大丈夫といった声がありますが、一方で借金の拡大、現役世代(生産年齢人口)や可処分所得の減少等、若い世代の不安の一つになっています。

今後の財政の方向性を国は示していくべきであります。

市も引き続き健全な財政運営に努めます。

○市の状況(令和3年度末時点)

基金(財政調整基金等)　約182億円

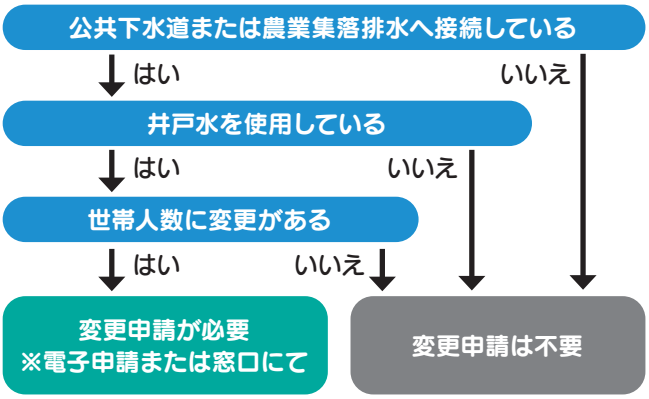
借金(すべての会計の市債残高)　約537億円

今月のピックアップ

井戸水使用世帯の人数確認を

井戸水を公共下水道または農業集落排水へ接続している世帯の下水道使用料は、世帯人数により算定しています。世帯の人数に変更がある場合は、笠間市上下水道お客さまセンターまたは本所・各支所の窓口で変更申請をお願いします。電子申請もできます。詳しくはお問い合わせください。

下水道マスコットキャラクター「スイスイ」



電子申請ページ

問　笠間市上下水道お客さまセンター
TEL.0296-87-2231